

<お知らせの履歴>

2025年6月20日

京都では6月半ば頃から水無月という和菓子が登場します。

三角形のういろうの上に煮小豆をのせて固めたもの。

小豆の赤色には魔除けの力があると考えられていて、

6月30日の「夏越（なごし）の祓」に水無月を食べ、

残り半年の無病息災を祈る風習があります。

水無月というのは暦上で6月のことを指しますが、

なぜ和菓子にも同じ名前をつけたのか？

その由来は、旧暦の6月1日に氷を食べることで、

夏バテを予防するという風習から来ているそうです。6月1日に氷を食べて夏バテ予防を祈願する

のは、元々室町時代の宮中で行われていた行事で、この行事を行い暑気払いをしていたのですが、当時の庶民の方々は高級品である氷を入手することはできませんでした。

代わりとして、氷に似たお菓子を食べることによって、夏バテ予防をすることになったそうです。



和菓子 水無月

2025年6月3日

時の記念日6月10日は、日本の記念日の1つです。

日本で初めて時計（「漏刻」と呼ばれる水時計）による時の知らせが行われたことを記念して制定されました。記念日ですが国民の祝日に関する法律に規定された国民の祝日ではありません。

時の記念日は671年天智天皇の時代に日本で初めて時を知らせたという日本書紀の記事を元に制定されたそうです。

時計は「漏刻（ろうこく）」という水時計で昼間しか使えなかった

日時計と違い、太陽の出ていない夜間も時間がわかるようになりました。

大正時代に時間を守ることの大切さを教えるために定められたそうです。



水を使って時間を測る時計

2025年5月16日

鏡沼（八幡平ドラゴンアイ）

山が雪解けを迎える5月下旬～6月上旬にだけ「ドラゴンアイ」と呼ばれる絶景が見られます。

高山の山頂近くにある池で確認される自然現象です。

コバルトブルー色を放つ雪解け水の真ん中に、丸く残った雪が竜の目のように見えることからこう呼ばれています。

メジャーなものは御嶽山（三ノ池）と岩手県・秋田県にまたがる八幡平（鏡沼）の2例しか確認されておらず極めて希少な自然現象です。

御嶽山は往復6時間ほど登山をしなければ辿り着けない場所ですが、

「八幡平ドラゴンアイ」は八幡平山頂付近に位置する「鏡沼」で見ることができます。

冬の間に降り積もった雪が春になり周辺部と中心部が雪解けすることで中央部が浮力で持ち上がりドーナツ状になり、そこに日の光、空の色などの様々な条件が重なって龍の眼のような神秘的な景観が形成されます。



鏡沼(八幡平ドラゴンアイ)

2025年5月11日

葵祭は京都三大祭の中でも一番古いもので上賀茂神社と

下鴨神社の例祭。5月1日の前儀とよばれる競馬足汰式、

5月3日の流鏝馬神事、5月4日には斎王代女人列御禊神事など、さまざまな儀式が行われます。

5月15日、平安装束をまとった500人以上の行列が京都御所から下鴨神社を経て上賀茂神社へと向かう「路頭の儀」がメインの見どころです。

「路頭の儀」は天皇の使者である勅使が下鴨、上賀茂の両神社に参向する道中。

近衛使（勅使代）をはじめ検非違使、内蔵使、山城使、牛車、風流傘、斎王代、馬36頭、牛4頭、500余名の行列が京都御所建礼門前より出発し、王朝絵巻さながらに行われます。行列のなかで、ひときわ目を引く乗り物が「御所車」と呼ばれている牛車。薄紫色の藤の花の装飾を揺らしながら車輪を回してゆっくり進みます。

また、大きな傘の上に、牡丹や杜若などの花を飾り付けているのは風流傘。

このほか、行列には、さまざまな道具類が登場します。



御所車と斎王代

2025年5月6日

五月の第二日曜日は母の日です。

母の日にカーネーションを贈るという習慣はアメリカで一人の女性が母親の命日に教会で母が好きだった白いカーネーションを参列者に配ったことからきています。日本に母の日が伝わったのは明治時代の終わりごろとされ、キリスト教関係者の間でカーネーションを配る母の日のイベントがおこなわれるようになり森永製菓が1937年に「森永母の日大会」を開催したことがきっかけで1947年に5月の第2日曜日が母の日として制定されました。母親を失くしている人は



母の日プレゼント

白いカーネーション、母親が健在な人は赤いカーネーションを胸に飾っていましたが、やがて母親にカーネーションを贈る習慣に変化したといわれています。母の日のプレゼントは実用的なアイテムや母親のライフスタイルに合わせたギフトなど多様化しています。これからの母の日は、カーネーションだけにとどまらず、「母に感謝を伝える日」として、あなたらしい母の日の過ごし方を見つけてはいかがでしょうか。

2025年5月1日

全国で5月に凧揚げが行われます。

相模原市新戸であげる8間四方(128畳)の大凧は日本一大きな凧です。座間市大凧まつりは、100人の引手で大凧を揚げるのが特徴です。泉区では伝統文化である「相模凧」を揚げる凧揚げ会が開催されます。相模凧は端午の節句に子どもたちの健やかな成長と五穀豊穡を祈願して揚げられる泉区の伝統文化で400年の歴史があると伝えられています。竹の骨組みに和紙を貼った正方形の凧で「ビーン」という独特のうなりをあげるのが特徴です。大空に舞う大凧を是非お楽しみください。



凧揚げイベント

2025年4月25日

今年も桜の季節がほぼ終わりました。あっという間に桜の花は散ってしまうため、美しいと言いますがやはり名残惜しいです。

しかし、桜のあとにりんごの花が見られます。

りんごの花は、桜の花と違った可愛さ、可憐さがあります。

りんごの産地ではりんごで花見をしています。

桜は葉っぱが出る前にピンクの花がまとまって咲くのに対し、

りんごの花は、新緑の葉っぱとともに蕾のピンク・花びらの白で

枝を彩ります。品種によって花の色や大きさ咲き始めるタイミング、

咲く数も違うので楽しいものです。

<桜とリンゴの花の違い>

花の形は似てますが色や香り、そして一番目立った大きな違いは咲き方です。

葉と花がどちらが先に出るかの違いです。 桜：花→葉 リンゴ：葉→花

桜は満開まで花のみですから全体が桜色に包まれ後に葉桜になります。

リンゴは若葉が先に出てから白い花が咲くので満開時では白色と緑色の混合となります。



リンゴの花

2025年4月17日

関東では葉桜となっていますが、東北で次々と桜が開花しています。

青森では4月17日に開花発表され4月下旬に満開の予報です。

今年は開花が早くなっています。

北海道でも平年よりも1週間前後早い開花予想となっています。

全国で最も開花の遅い釧路では5月7日に開花を迎え、桜前線はゴールへと向かいます。

北陸や長野県、東北南部は今が見頃のピークで今週末にかけては各地でお花見を楽しめそうです。



五稜郭タワーからの景色

2025年3月24日

24日(月)、東京で桜の開花宣言がありました。

これから桜の開花が進み、桜の花見のシーズンもすぐそこまで近づいています。

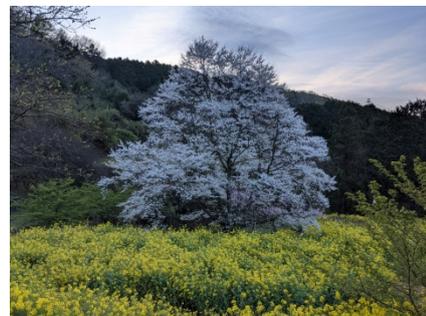
桜の開花時期は、品種によって異なります。

「桜の開花期はカンザクラ類に代表される早春に咲くものがあったり、晩春に咲くものがあったりと、案外長期にわたっています。

これから「咲き始め」「もうすぐ満開(七分咲き)」「満開」

「桜吹雪」と、いろいろな桜の様子を楽しむことができます。

皆さんはどのタイミングがお好みですか？



秦野市蓑毛の薄墨桜

2025年3月8日

2025年のスギ花粉の飛散は過去最多で関東地方は昨年の約2倍との報告です。2年前も多く飛散しましたが、それよりも多く、今まで軽症の方は重症化の恐れがあります。

昨夏の「高温・多照・少雨」により、スギの花粉がかなり大量にできている様です。スギ花粉は、3月上旬には広い範囲でピークを迎え、ピークの期間は10日間から1か月ほど続く見込みです。

また、ヒノキ花粉のピークは3月下旬から4月上旬で、期間は5日間から2週間ほど続くそうです。

強い風が吹く日や急に暖くなる日には、花粉の飛散が極めて多くなります。

花粉情報や気象情報を確認して、万全な対策を心がけましょう。



2025年2月24日

京都・下鴨神社では3月3日に「流し雛（ながしびな）」を行います。境内に流れる御手洗（みたらし）川にひな人形を流し、子供たちの無病息災を祈る神事です。雛壇に飾られるきらびやかな衣装に対して、流し雛は色紙などの簡素なものが用いられます。流し雛とは、身のけがれを和紙でできた雛人形に託して水に流し、それを祓うという平安時代よりの習慣です。流し雛の式典として、お雛様は十二単、お内裏様は衣冠の平安装束を身にまとい流し雛の儀を執り行います。



2025年2月15日

天皇誕生日の祝日は、平成のあいだは12月23日でしたが、令和元年から今上天皇（第126代天皇徳仁）の誕生日である2月23日に移りました。天皇の誕生日は「天長節」の名で祝われていましたが、1948年（昭和23年）に「国民の祝日に関する法律」が制定されると、天長節は「天皇誕生日」という祝日に改められました。明治天皇が1912年に崩御された後、「明治天皇の功績を世に伝えたい」という国民の声が上がり、1927年に明治天皇の誕生日11月3日は「明治節」という祝日が制定されました。1948年の国民の祝日に関する法律制定により、明治節は廃止され、11月3日は「文化の日」になりました。昭和天皇の誕生日は4月29日でした。現在、この日は「昭和の日」として祝日に制定されています。

天皇誕生日 宴会の儀	
一 汁	白味噌
一 作	餅
一 取	香
一 焼	物
一 温	物
一 加	飯
一 酒	酒

令和二年二月二十三日

2025年2月11日

涅槃会（ねはんえ）2月15日はお釈迦さまが入滅された日です。釈尊涅槃会（しゃくそんねはんえ）は、釈迦の誕生にちなむ仏性会、釈迦の悟りにちなむ成道会とともに三大法要として重んじられています。各寺院では涅槃図を掲げ、釈迦の最後の説法を収めた「遺教経」を読誦します。「釈迦涅槃図」とは、沙羅双樹（さらそうじゅ）の下でお釈迦様が入滅される情景を描いた図で、横臥した釈迦のまわりを、弟子や動物が取り囲んだ図です。なかでも京都興福寺の吉山明兆作の涅槃図はその雄大さで知られています。



2025年2月9日

建国記念日2月11日は、国家の基礎が確立したことを祝う日です。日本では実際の建国日が明確ではないため建国神話を基に建国を祝う日として「建国記念の日」が定められました。



「建国をしのび、国を愛する心を養う日」として1966（昭和41）年に定められました。

2月11日は初代天皇である『神武天皇』が即位された日です。

旧暦の1月1日は太陽暦に換算すると2月11日となります。

神武天皇とは、日本最古の歴史書である古事記や日本書紀に出てくる人物であり、

古事記は神様や日本という国がどのように産まれたか等が記述されています。

建国記念の日のらしさを感じる過ごし方をしてみてはいかがでしょうか

橿原(かしはら)神宮で行われる例祭「紀元祭」が2月11日（火・祝）に天皇陛下の御名代である勅使参向のもと斎行されます。

なぜ橿原神宮に勅使が派遣されるのかということ、日本の初代天皇である神武天皇が即位したのが橿原の地にあった大和橿原宮とされているためです。まさに日本という国ができた場所です。

2025年2月4日

2月8日の『事八日』は、物忌み（さまざまな日常行為を控える行為）の日と考えられ、この日は仕事を休む風習が各地で行われていました。

この日、針仕事を休み、折れた針などを豆腐などに刺して供養する針供養が行われるのもその一つです。



人々が仕事を休んで家に籠るのには理由があります。

それは事八日には「妖怪」が家にやってくるからなのです！

事八日の晩に「一つ目小僧」がやってくるとされています。

事八日になると人々は長い竿を用意し、その先に網カゴを吊るしました。

一つ目小僧は、たくさんの網の目に驚いて、その家に近づかなくなるそうです。

網カゴの他にも、戸口に櫛を立てかけたりすることで妖怪が寄り付かなくなるそうです。

ヒイラギやイワシの頭を吊るして追い払う例もあります。

いわしの頭を焼くときのけむい匂いと、ひいらぎのトゲが鬼から守ってくれるという風習です。

軒先に吊るして無病息災を願いましょう。

2025年1月31日

天王森泉公園では、毎年節分祭が開催され、災厄や邪気を祓い、福を呼び込む

「豆まき行事」が行われます。今年の節分祭は2025年2月2日(日)に開催。

天王森泉公園は和泉川沿いに広がる水田、それを縁どる斜面緑地が昔懐かしい農村の面影を今に伝える泉区の南部。

台地の崖線から湧く豊富な湧水をいかして、流域には20に上る製糸場が営まれた歴史を持ちます。

一角に雑木林を主体とした面積約35,000㎡の本公園があります。

正面には製糸場の本館が再生され、涸れることのない湧水が自慢です。

天王森泉館（旧清水製糸場本館）・湧水の森・見晴らしの丘・くわくわ森の4つのエリアに分かれています。



2025年1月18日

1月25日は鎌倉行事が盛り沢山です。

幕府の鬼門(北東)を鎮護する神として頼朝により、祀られた鎌倉荏柄天神社の「初天神」の縁日です。学問の神様として尊敬されている菅原道真に因んで始まった「筆供養」も執り行われます。

書家や歌人などをはじめとする参拝者が持ち寄った愛用の筆や鉛筆を焚きあげて供養することにより書道や字の上達を願います。

常楽寺(大船)でも25日に秘仏の木造文殊(もんじゅ)菩薩坐像が開帳され、文殊菩薩の供養をする祭り「文殊祭」が行われます。

この日以外は開かれぬ秘仏である文殊菩薩像は右手に如意という道具、左手に経巻を持った鎌倉時代の作ですが頭部は開山大覚禪師が宋より伝えたものだといわれています。



2024年12月2日

横浜・山下公園にて2024年12月5日(木)から2025年3月2日(日)の期間

「Winter Wonder Park Yokohama2024」が開催されます。

異国情緒あふれる山下公園の風景と共に、光と音楽が融合した幻想的な空間に設置されるイベントです。家族や友人同士で1日中楽しめる多彩なアクティビティが満載です。

横浜の冬が光と音楽で輝くこの特別なイベントを楽しんでみてはいかがでしょうか。

横浜・みなとみらい各エリアをブルーを基調としたLEDライトの鮮やかな光で包み込みます。イルミネーションと多彩なイベントを楽しめるみなとみらいで思い出作りをしてみてください。



2024年11月20日

横浜市南区真金町に鎮座する金刀比羅大鷲神社では2024年11月29日(金)の「三の酉」で令和六年例大祭「酉の市」を開催します。

縁起ものがたくさんついた縁起熊手が名物で新年の開運招福、商売繁盛を願うお祭りとして親しまれています。

「三の酉まである年は火事や災いが多い」という言い伝えがあり、三の酉の年限定の江戸火消しの纏(まとい)に見立てた「火除守り」が人気です。



2024年11月5日

【Live! 横浜 2024 とは・・・】

横浜を「音楽のまち」としてブランディングしていくため、みなとみらい21地区を中心とした都心臨海部の音楽施設・民間イベントや音楽団体、横浜市などが一体となって創り上げる新しいスタイルのフェスティバルです。

大規模イベントをはじめ、音楽、ダンス、アニメなど多彩なジャンルを取り込み、8つの街なかステージを中心に30か所を超えるステージを一斉展開します。

大人も子どもも楽しめる、まち全体がライブで躍動する4日間をぜひ楽しんで見ませんか。

会期：11月9日（土）、10日（日）、16日（土）、17日（日）

会場：みなとみらい21地区を中心とした都心臨海部



2024年10月19日

【江の島シーキャンドル湘南キャンドルライトアップ】

いよいよ秋らしくなりましたね！

今年も江の島で秋を感じられるイベント

「湘南 CANDLE」が始まりますよ。

江の島シーキャンドルを中心に、約10,000基のキャンドルが灯ります。そこには、あたたかな光に包まれた幻想的な世界が広がっていますよ。ぜひ暖かくして、この期間だけの江の島を楽しみに行ってみませんか？

期間：2024年10月20日（日）～11月4日（月）

会場：江の島サムエル・コッキング苑



2024年9月21日

「2024ふじさわ江の島花火大会」

開催日：2024年10月19日（土）

打上時間：午後6時～午後6時30分（30分間）

場所：片瀬海岸西浜

打上発数：約1800発（最大号数4号玉）

ふじさわ江の島花火大会は、湘南のシンボル、江の島をバックに片瀬海岸西浜から打ち上げられる湘南の秋の風物詩です。

多彩な花火で構成され湘南海岸の夜空を美しく彩り、ロマンチックな秋の夜を演出します。



2024年9月17日

「第17回小出川彼岸花まつり」

2024年9月21日(土)、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町を流れる小出川沿いで「第17回小出川彼岸花まつり」が開催されます。9月下旬から10月上旬にかけて、青少年広場(寒川町大蔵)、大黒橋(藤沢市遠藤)間の小出川沿いのコース(3キロメートル)に、彼岸花が咲き誇ります。天気の良い日には、遠くに富士山や丹沢山系を眺めながら散策を楽しむことができます。

【花のみどころ】

小出川沿い 大黒橋～寒川町青少年広場の約3k



2024年9月10日

<鶴岡八幡宮の例大祭>

16日の流鏝馬神事中止

15日朝、流鏝馬練習中に20代男性が落馬し意識不明の重体となり鶴岡八幡宮の流鏝馬は中止となりました。

毎年9月14日から16日までの3日間にわたり執り行われます。献茶会、献華会、武道大会、日本舞踊などの神賑行事が続々と奉納され、多くの参拝者で賑わいます。



【9月15日(日)】10時00分～：例大祭

神社本庁より幣帛を奉る献幣使を迎え、宮司以下神職、巫女、八乙女が奉仕し、大勢の参列者を迎えて厳かに執り行われます。神前には鈴虫も供えられ、秋らしい虫の音が響きます。

【9月16日(月祝)】13時00分～：流鏝馬神事

境内の流鏝馬馬場にて、鎌倉時代さながらの狩装束に身を包んだ射手が、馬で駆け抜けながら3つの的を射抜く勇壮な神事で、源頼朝公の時代より約800年の伝統を受け継いでいます。

2024年8月15日

横浜スパークリングトワイライト

ヨコハマのミナトを彩る5分間の花火の打ち上げ!

週末を中心に通年で花火と夜景を楽しめます。

横浜港を彩る花火をぜひ楽しんでみてはいかがでしょうか?

会場：横浜港(新港ふ頭、大さん橋他)

2024年8/31、9/14・21、10/12・26、11/2・9・16、12/7・24 横浜スパークリングトワイライト

開催時間：2024年8月、9月の開催 20:00～20:05。

2024年10月～12月の開催 19:00～19:05

打ち上げ数 約150発



2024年7月30日

鶴岡八幡宮では、2024年8月6日～9日の4日間「ぼんぼり祭」が行われます。

鎌倉市内や鶴岡八幡宮にゆかりのある著名人が書いた書画約400点がぼんぼりに仕立てられ、参道に並びます。夕刻になると明かりが灯り、幻想的な光景が広がる魅力溢れるお祭りです。

ぼんぼり祭の期間中には、「夏越祭」「立秋祭」「実朝祭」の3つの神事が執り行われます。

【夏越祭】8月6日 15時～（立秋の前日）

夏の邪気を祓う神事が源氏池のほとりで行われた後、参道で「茅の輪くぐり」を行い、健康を祈願します。舞殿では巫女により「夏越の舞」が奉納されます。

【立秋祭】8月7日 17時～（立秋の日）

夏の無事を感謝し、実りの秋の訪れを奉告する昭和25年より始められたお祭りです。

ご神前には神域で育まれた鈴虫が供えられます。

【実朝祭】8月9日 10時～（場所：白旗神社）

源実朝公の誕生日に執り行うお祭りで、昭和17年より始められました。

実朝公の遺徳をしのぶとともに、文芸に優れた実朝公にちなみ、例年、短歌会が催されます。



<鶴岡八幡宮・夏越祭>

2024年7月27日

「関東三大阿波踊り」の一つ「神奈川大和阿波おどり」が7月27日、28日に開催されます。

地元連のほか、全国から多くの連が参加し、鉦や太鼓の音が鳴り響く中、色鮮やかな衣装をまとった踊り手たちが熱い演舞を披露します。

28日16時からの「総踊り」は圧倒的な迫力で観客を魅了するものです。

観ても踊っても楽しめる大和の夏の風物詩です。



<令和6年大和阿波踊り>

2024年7月20日

日本各地には独自の伝統と文化が息づく祭りが数多く存在します。

暑い夏は日本の祭りのエネルギーが爆発する季節。

7月から日本各地で沢山の夏祭りが開催されます。

見るだけではもったいない!! 参加して地元の人々と

一緒に声を出して盛り上がるのは如何でしょうか。



<令和5年須賀神社例大祭>